



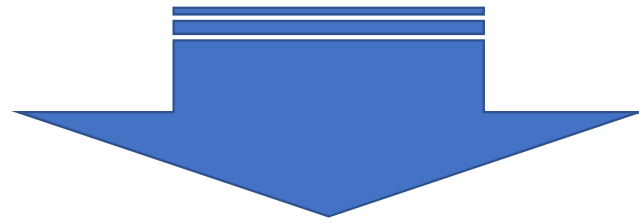
公共交通及び環境シンポジウム2021 in 九州

地域のくらしを創るサステイナブルな 地域交通の実現に向けて

2021.11.1

国土交通省総合政策局 地域交通課長 倉石誠司

地域価値創造という視点。



地域コミュニティは、
未来へ向けた新たなインフラ。

社会全体、

産、官、学・・・

それぞれが「境目」（エッジ）
を立てて活動してきた歴史。

・・・しかし、その行き詰まり。

地域のくらしに関わる 「境目」(エッジ)とは、

例えば・・・政策ジャンルでいうところの

介護・福祉、エネルギー、住宅、

教育、治安、災害対応…、

そして地域交通。

あらゆる「境目」（エッジ）を

取り除くこと。

ハードも、そしてソフトも。

居心地 (いごごち) よい
くらし を実現すること。

感染症による人々の暮らしへの影響

アフターコロナ時代では、地域コミュニティはより小さく分散化・多様化。
これからは、地域コミュニティ単位での **ウェルビーイングな暮らしを実現** する必要。

ライフスタイルの多様化

自宅等でのテレワーク・多拠点居住の増加

(例) 雇用型就業者のうちテレワーク制度等に基づくテレワーカーの割合は、
昨年度の 9.8%から、19.7%と倍増

(国土交通省都市局「令和2年度テレワーク人口実態調査」2021年3月)

社会的不安の増加

あらゆる世代で心理的に疲弊、孤独感が増大

(例) 感染症拡大後、いずれの時期も、
半数程度の人が何らかの不安等を感じていた (4月～5月では6割)

(厚生労働省「新型コロナウイルス感染症に係るメンタルヘルスに関する調査」2020年12月)

主として「葉の交通」を地域の「ひと」の「暮らし」からのベクトルで考える

◎ ファーストワンマイル ←×ラストワンマイル

- (例) 医療・介護、教育、エネルギー、住宅など「暮らし」に関わる
あらゆるビジネス領域や各種のコミュニティとの「協働・共創」
- (例) 持続可能な地域内ファイナンス・地域内経済循環
- (例) 多様化する小型モビリティも含めた交通モードのベストミックス
- (例) 地域の創意工夫を誘発する制度運用の柔軟化
- (例) 住民のニーズを満たすためのMaaSなどテクノロジー・データ活用



規模感に応じた主体の区分

交通モード別でなく **物理的な地域の規模感別に応じた分類** により、地域交通のあり方とその主たる担い手を捉え直し、政策のリ・デザインを行う。

